

## 令和7年度第22回 卒業証書授与式

19日(木)に「第22回卒業証書授与式」を行いました。卒業生は、凛とした姿で証書を手にし、ステージ上で堂々と自分の将来について語りました。その後、5年生のY・Mさんが在校生総代として送辞を、卒業生のU・Cさんが卒業生総代として答辞を、記念品(壁掛け時計)贈呈を卒業生のM・Eさんが、それぞれに立派な態度で伝えてくれました。卒業生の中にも、在校生の中にも、涙があふれている子がいました。そして、担任の高田先生の目にも…。卒業式後には、全校児童が式場(体育館)に入り、「卒業生を祝う会」を行いました。各学年からの心のこもったプレゼントや出し物に、卒業生の心も揺り動かされたようでした。



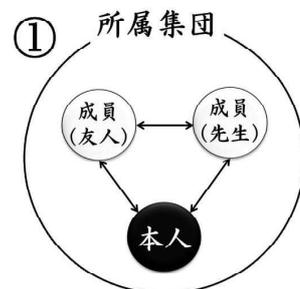
そして、高田先生による教室での最後の授業。家族のつながりを感じ取ることができる心打たれる授業でした。その後、小学校の6年間を振り返るスライドショーを視聴したり、感謝の思いを伝えたりして、17名の卒業生は晴れやかに学校を巣立ってきました。何と素晴らしい半日だったことでしょう。麻生学園小学校で学んだ6年間は、卒業生のこれからの人生の糧になることを願うとともに、職員一同、ずっと応援し続けたいと思いました。

## 感じたことから

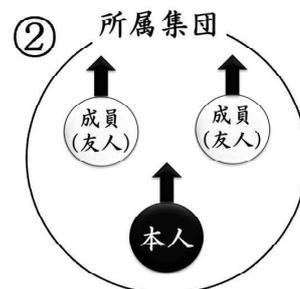
## ○「卒業式での涙」

上記のように卒業式では、卒業生の目に涙があふれ、見ているこちらにまで心にこみあげてくるものがありました。この涙の意味を考えるなど、野暮なことかもしれませんが、卒業生と学校とのかかわりについて次の3点から触れてみたいと思います。

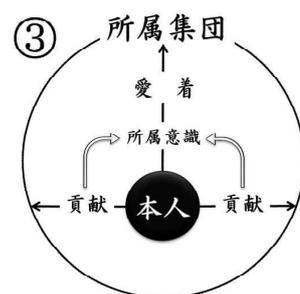
第1は、卒業生と他者とのかかわり(右図の①)によるものです。所属する集団(学校)での他者(同級生・下級生・先生)としっかりとした関係を作り、つながりが深いからこそ、涙があふれてきたのだと思います。現に、卒業生を見送る在校生や先生の目にも涙が見られていたことからつながりの深さを感じました。【建学の精神「至心」でいう“他者とのかかわり”】



第2は、自分の力を伸ばしてきた場であること(右図の②)によるものです。学校で勉強や運動等、しっかり鍛え、友達とともに切磋琢磨しながら力を伸ばしてきた場に対する思いによる涙であるように思いました。【建学の精神「至心」でいう“自分の力を高める”】



そして、第3は、学校に対する“愛着”(右図の③)によるものです。“愛着”は、所属集団(学校)への“所属意識”から来るものです。さらにその“所属意識”を生み出すものとして最も大きいのが、集団への“貢献度”です。所属集団の文化を内面化し、その集団の役に立とうとする行動により、集団への“所属意識”は強まります。卒業した6年生は、下級生が裏山で遊びやすいように進んで整備してくれたり、学校の汚れている場所を丁寧に磨いたりしてくれていました。また、運動会では全校のみんなが力を発揮できるように、中心となってまとめ上げてくれていました。このような活動を通して、“学校という集団”と“自分の存在”が一体化されたことでしょう。そしてそれは、“所属意識”につながり、さらには、学校への“愛着”へと思いが膨らんできたことと思います。【建学の精神「至心」でいう“他者とのかかわり”】



さて、現在、本校に在籍する子ども達は、学年により残りの在籍期間は違いますが、今示した3点から学校生活での在り方を見つめ直してほしいと思います。そして、それぞれが卒業する際には、心からの喜びと感動(ある場合は涙)を得てくれることを願っています。